

## お茶の水「サラファン」

薄暗いカウンターに陣取り  
使い込んだ白い皿から  
脂ぎったオードブルをつまみ  
ウォッカをぐいと干して、ちらりと  
お<sup>か</sup>み<sup>み</sup>主人を見上げれば、あちらも  
微笑を浮かべていた

煙草の煙が立ちこめて、ゆらりと  
目の前を漂ってゆく・・・  
明らかに太り過ぎの女主人は  
乱暴な手つきでニンジンをぶつ切りにし  
さも愉快そうに鍋に放り込み  
私は煙を鼻から吐き出した

胃袋のけだるさが夜を溶かし  
はしゃぎ騒ぐ学生の声は遠のき  
私は夢見ている、夜の立ち去る頃の  
群青色の都会に白む街灯を  
私は想っている、浮浪者が過ごす  
夜と昼とのけだるい繰り返しを

(1985.4.15)